

2023 年度 学校自己評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

学校自己評価委員会

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

II. 実施方法

実施日：2024年1月

1月17日（水）Google Forms を用いて質問配付〔資料1〕

1月24日（水）入力締切

調査対象：本校教職員全員（非常勤講師、助手、臨時要員は除く）

評価項目：1. 学校運営に関すること 2. 教務、教科指導に関すること 3. イノベーション教育に関すること 4. 生徒指導に関すること 5. 進路指導に関すること 6. 保健室に関すること 7. 募集活動に関することの7分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。〔資料1参照〕

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：1.よくあてはまる 2.ややあてはまる …… プラス評価
3.あまりあてはまらない 4.まったくあてはまらない …… マイナス評価
の4段階で行った。

集計結果については、人数と割合で示している。さらに割合は

1.よくあてはまる（1点） 2.ややあてはまる（0.5点）
3.あまりあてはまらない（-0.5点） 4.まったくあてはまらない（-1点）

とし、それぞれ割合に上記点数を掛けたものの総和を「加重」欄にグラフ化し、+100～-100の範囲で点数化して示した。

* 部署ごとにPDCAを実施していることから、報告書では部署ごとに出た意見を集約している。また各項目の評価・分析等も該当する部署が検討し、記入した。

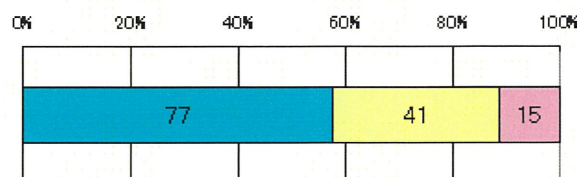
III. 「将来像」と2023年度の「重点目標」

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	① 自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ② 学园内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ③ 海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実

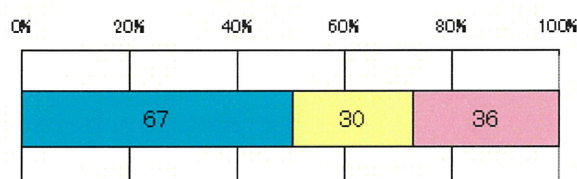
Ⅳ. 基礎調査（職域、本学園の勤務年数）

調査1（基礎調査）

職 域	人数	割合（％）
1. 専任教諭	77	57.9%
2. 特任教諭	41	30.8%
3. 事務職員	15	11.3%
合 計	133	100.0%



本学園の勤務年数	人数	割合（％）
1. 10年未満	67	50.4%
2. 20年未満	30	22.6%
3. 20年以上	36	27.1%
合 計	133	100.0%



Ⅴ. 自己評価報告

1. 学校運営に関すること①

		1:よくあてはまる	2:ややあてはまる	3:あまりあてはまらない	4:まったくあてはまらない									加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標
評価項目	No	設問				評価(人数)				評価割合(%)							
						1	2	3	4	1	2	3	4				
建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。				42	75	16	0	32	56	12	0	54	61	65	60
中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。				34	75	21	3	26	56	16	2	44	45	50	50
学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。				33	67	31	2	25	50	23	2	37	39	40	40

0%25%50%75%100%

1

3256120

2

2656162

3

2550232

~20020406080100

54

44

37

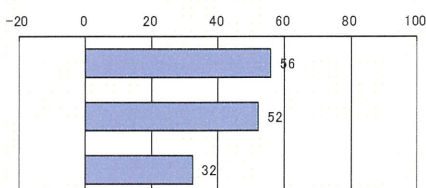
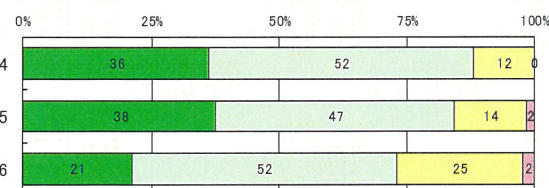
【評価と次年度の目標について】

この項目では全てにおいて、前年度の評価を下回っているが、2, 3年前の評価とはそれほど大差のないものとなっている。「建学の精神・愛校心」については、新入生オリエンテーションで自校史教育を実施しているが、常翔歴史館を見学するなど、更なる施策を検討する必要がある。校友会主催で実施する「はたちの集い」や「卒業5年目、10年目の同窓会」などが、認知されてきたが、参加者が一貫コース卒業生に偏っているので、高入コース生の参加者が増えるように、担任教員の協力を求めたい。

「中学校・高校の経営」「学園の各組織」については例年評価が低い項目である。職員会議で学校長が学園組織についての説明を毎年行っているが、一般の教員はあまり関心を示していないように思われる。以前に実施していた中高の財務状況の報告会を復活すれば、全教職員が当事者意識を持って業務を遂行するようになるのではないかと。働き方改革が進む中で、業務の見直しと効率化は必須であるが、経営者感覚を持って主体的に動く中間管理職の養成が不可欠である。

学校運営に関すること②

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	48	69	16	0	36	52	12	0	56	65	65	60
学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	50	62	19	2	38	47	14	2	52	63	65	60
会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	28	69	33	3	21	52	25	2	32	39	40	40

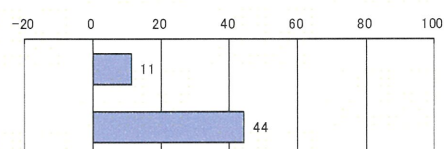
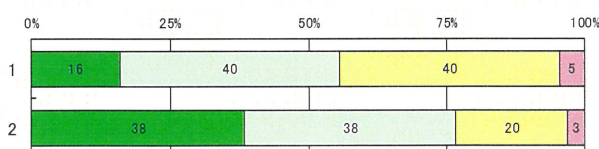


【評価と次年度の目標について】

この項目はいずれも前年度を下回り、目標を達成できていない。「**教職員の連携**」については、働き方改革を進めていくに当たり、一人で抱え込むことなく、協力し合おうという雰囲気が生まれてきているが、今年度は長期間の病気休暇を取る教員が複数出たため、周りの教員の負担が増えてしまった可能性がある。男性教員の育児休暇についても、取得を推奨していく中で、いかに教員間でのサポートができるかが重要となる。「**学校間連携**」については、2022年度から常翔啓光中高との合同研修会や高校の合同発表会を開催しているが、その参加者の少なさが評価の低さに繋がっている。中学の百人一首大会同様、高校でも生徒間の交流を持つ機会も設けたので、これを上手く発展させたい。学校間連携推進委員会ともうまく協力し、次年度以降、更なる充実を図りたい。前年度、大きく評価を伸ばした「**会議の有効性**」については、若干評価が下がったものの、以前に比べるとかなり高い評価となっている。職員会議を中心に、会議時間の短縮が実現できている。校務会の協議事項を事前調整する校務懇談会が無くなり、会議資料のiPad 配信など、効率化も進んでいる。ただ、前年度の報告書でも指摘したが、チェック機能が若干低下している傾向にあるので、会議のあり方について、「教員の働き方改革」と併せて改善したい。

学校運営に関すること③

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができている。	21	53	53	6	16	40	40	5	11	15	20	20
授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	51	51	27	4	38	38	20	3	44	57	60	55



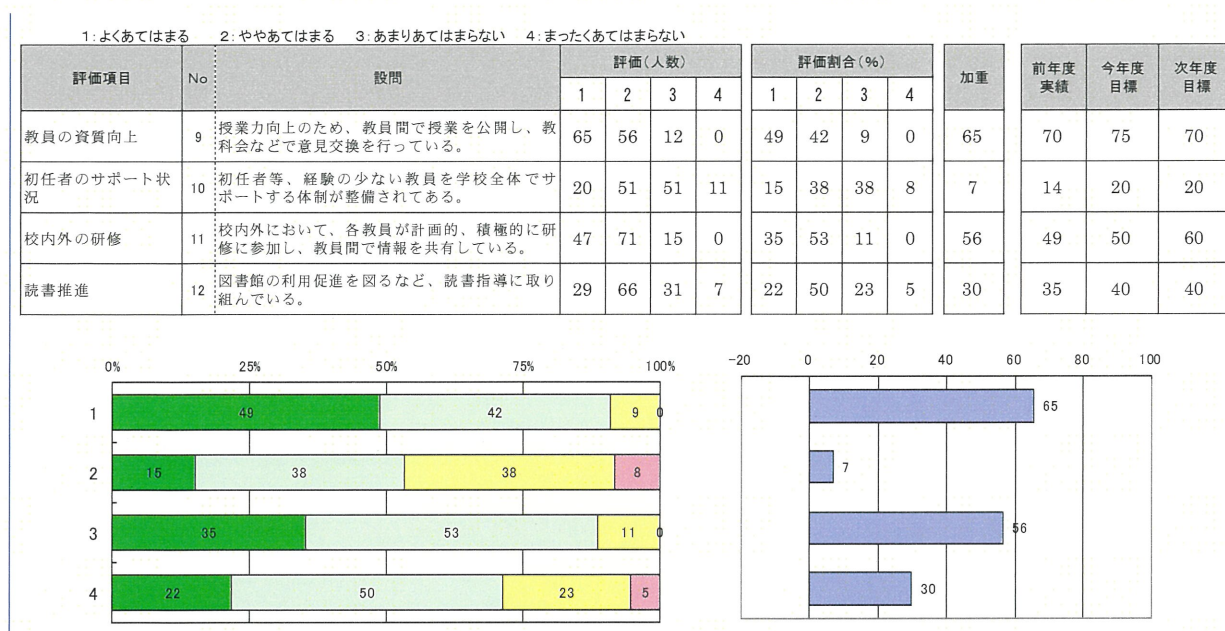
【評価と次年度の目標について】

「**地域交流**」については、従来から評価が低い項目である。生徒による地域清掃活動や淀川マラソンなど地域行事へのボランティア活動を通じて、地域交流を増やすようにしたい。今年度から卒業生や地域住民の文化祭への招待を復活させたが、その告知をしっかりと発信したい。

「**授業等公開状況**」は、積極的に外部からの視察を受け入れると共に、各種行事でも収容能力の許す限り、保護者が参加できるようにした。ただ、以前実施していた公開授業（授業参観）を

実施していないため、保護者のアンケートにおいても復活を求める声が大きくなっている。次年度は、今年度以上に各行事をコロナ禍以前のように実施したい。

学校運営に関すること④



【評価と次年度の目標について】

従来から行っている研究授業や授業アンケートに加え、2022 年より教員免許更新制が解消されたことに伴い、教育イノベーションセンターや教務部による校内研修を充実するようにしている。特にグローバル探究コースの新設にむけて、教科間連携（CLIL）の研修も始めた。また、学園総務課から提供される e-learning 研修教材も積極的に活用するように呼びかけを行っている。また、今年度より研修履歴を記録することを義務づけている。今年度については、若干、「**教員の資質向上**」のポイントが下がったが、この数年、比較的高い評価を維持している。

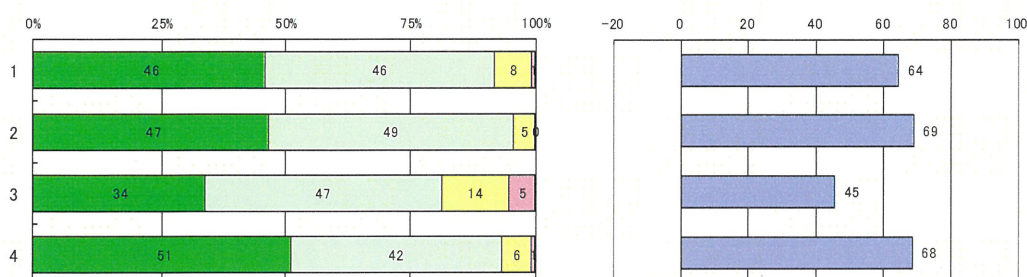
「**初任者のサポート状況**」は、常に低迷している項目である。多くの若手教員は教員経験が浅い中で、担任や部活動といった職務を負担に感じている教員が多い。働き方改革でできるだけ負担軽減を目指しているが、部活動や一部の負担の大きい部署や担任問題は、根本的に変えなければならない問題を多く抱え込んでいる。今年度からは、部活動の担当を希望制としたが、生徒のことを考え、そのまま部活担当を継続するベテラン教員が多い。教員を希望する若者が減少し、教員不足が深刻化している中、喫緊の課題である。

「**校内外の研修**」は前述の通り教務部や教育イノベーションセンターの研修会に加え、他校の研修にも参加する教員が増えている。評価についても、継続的に向上している項目である。本校は教育先進校として、「学習する組織」を目指していることから、研修文化を根付かせることは最も注目すべき項目である。

「**読書推進**」については少し評価が下がったが、この数年の傾向を見ると、徐々に向上しているのがわかる。中学校でも「ビブリオバトル」の大会に参加するなど、国語科を中心に積極的な取り組みが見られる。大学入学共通テストにおいても、国語や英語を中心に読解力が求められている問題が増えているため、図書館と国語科を中心に各教科が連携し読書運動をさらに盛り上げる必要がある。読解力不足は、国語科だけでなく全教科に影響することから、今後さらに改善していきたい。

2. 教務、教科指導に関すること

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない						加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)								
			1	2	3	4	1	2	3	4					
学習指導要領の対応 状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	61	61	10	1	46	46	8	1	64	69	75	70	
学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	62	65	6	0	47	49	5	0	69	69	75	75	
人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	45	63	18	7	34	47	14	5	45	52	60	55	
スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	68	56	8	1	51	42	6	1	68	65	75	75	



【評価と次年度の目標について】

「**学習指導要領の対応状況**」については、5ポイント減であった。新学習指導要領下において三観点評価が高1・2学年で実施され、各教科において新しい授業作り（アクティブラーニング等）の取り組みを継続して行っているにもかかわらず、ポイントが上昇しなかった。教員の意識は高まっているが、シラバス等のコンテンツが不十分であるのが原因ととらえ、改善したい。今後も、学校・教科ループリックを活用して生徒の現状を把握するとともに、外部から講師を招くだけでなく自校教員による教科内の研修を行い、次年度に向けてさらなる授業の充実を期すつもりである。

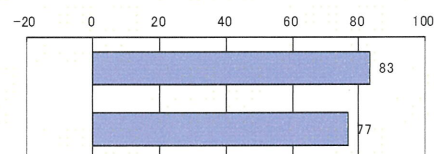
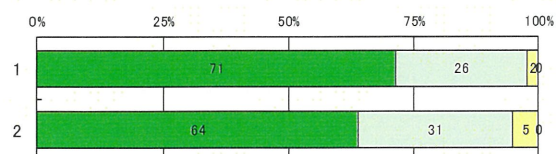
「**学習指導**」については、現状維持であった。コロナ禍を経て、本校の教育活動も完全に戻り、かつオンライン授業の態勢も整っている。昨年度から第1学期中間テストを廃止、日々の学習におけるスモールステップを大切にしつつ、アクティブラーニング等の授業も行われている。新学習指導要領下において、知識・技能のみならず、思考・判断・表現力も伸長させ、主体性を涵養する教育にスムーズに移行したと考える。

「**人権教育**」については、前年度から7ポイント減の45ポイントとなり、残念な結果であった。しかしながら、教務部においてこれまでの本校における人権教育を根本的に見直し、再体系化を開始した。これまで孤立していた人権教育を本校教育の中に位置づけ、各教科との連携を図り、人権教育委員会を中心にその内容を整理している。従来からの形式は残しつつ、新しい時代に対応していくために作業を進めている。特に、中学校においては、道徳の授業の中で人権教育を実践し始めたので、その成果が期待できる。

「**スポーツ・芸術文化**」については、前年度から3ポイント増の68ポイントとなった。コロナ禍も終わり、体育祭、文化祭の制限も徐々に緩和され、ストレスも解消されてきた。芸能鑑賞や球技大会も行い、中学校においてはより文化的な文化祭を志向することに加え、百人一首大会も盛況であった。中学校・高校とも学校行事のラインナップは十分だと考えている。また、行事の事前・事後にループリック調査の実施を励行、本校教育の目的・目標を常に意識したものにしていきたいと考えている。

3. イノベーション教育に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	95	35	3	0	71	26	2	0	83	88	85	85
国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	85	41	7	0	64	31	5	0	77	53	60	75



【評価と次年度の目標について】

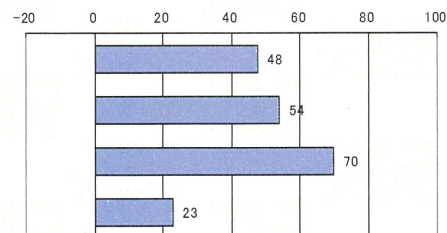
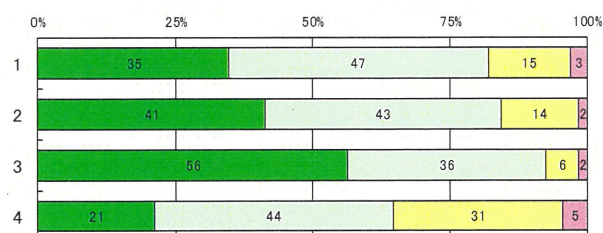
「新しい教育への取り組み」のスコアは83と目標を5ポイント下回ったが、ほぼ目標値であった。本校の教育活動全般にICT教育が十分に浸透し、オンライン授業のスキルも各教員がさらに向上させ、iPadの利用やデジタル教材の活用が多くなってきた。いつオンライン授業になっても対応できる態勢になっていることは大いなる成果である。対面授業・オンライン授業の両方に対応できる教員が年々多くなっている。

また、座学中心であった授業形態から、アクティブラーニング形式の授業やグループ学習、ペアワークなど様々な形式の授業に変わりつつあり、それにより主体的に学ぶ自律的学習者も増えてきた。キャリア教育についても、各教員が熱心に取り組を行い、生徒への指導スキルも年々向上している。

「国際理解・交流」については、スコアを大幅にアップさせることができた。2023年度から海外研修（オーストラリア語学研修、セブ島英語研修プログラム）が復活し、海外（今年度はアメリカ、メキシコ、韓国、中国、台湾）から本校を訪問、交流する学校が増えた。ターム留学に参加する生徒もあり、留学生や海外から訪問に来る生徒を一定期間受け入れる家庭も増えてきた。校内でのBasic English Camp（高1）やGlobal Leaders Camp（高2）の参加も促すなど、国際交流全般に力を入れた。

4. 生徒指導に関すること①

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	46	63	20	4	35	47	15	3	48	57	65	60
生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	55	57	19	2	41	43	14	2	54	56	60	60
学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	75	48	8	2	56	36	6	2	70	71	75	75
ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	28	58	41	6	21	44	31	5	23	26	30	30

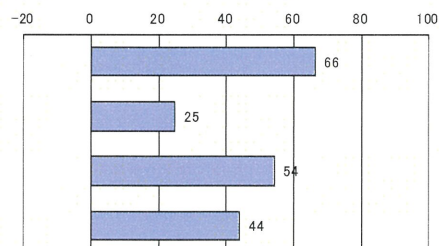
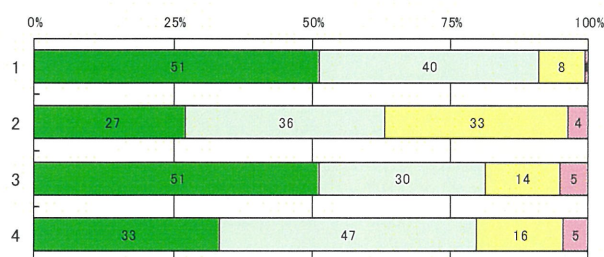


【評価と次年度の目標について】

「指導方針の一貫性」は昨年度より9ポイント減少し、目標達成とは至らなかった。また今年度も「生徒会活動」について、2名から「全く当てはまらない」とする回答があり、2ポイント減少となったことから、この活動に対して教職員に未だ周知できていない部分があると次年度に向けて、よりよい周知方法を見出していきたい。「学校行事」については前年度から大きな変更はなく、ポイントも前年度並みで、目標達成とはならなかった。これは体育祭や球技大会を実施できたものの、まだまだ、満足のいく開催には至っていないと考えられる。様々な活動を活発にしていくための工夫が必要と考える。「ボランティア」については、校内での活動は多くの行事において行っているものの周知されていない。校外での活動においてはまだまだ、不十分なところが見受けられ、目標達成には至っていない。今後に向けて更に中学校も含めた生徒会活動を活性化し、中高一体となった活動を構築していきたい。また、活動の情報を広く発信し周知させることで、学外活動にも目を向けて学校全体の活性化を図っていきたい。

生徒指導に関すること②

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない														
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	68	53	11	1	51	40	8	1	66	77	80	75
環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	36	48	44	5	27	36	33	4	25	37	45	40
部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	68	40	18	7	51	30	14	5	54	67	70	65
情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	44	62	21	6	33	47	16	5	44	50	55	50

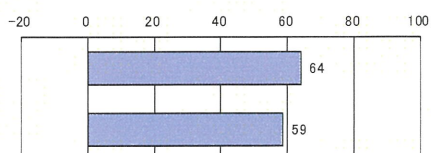
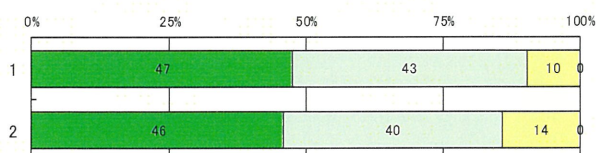


【評価と次年度の目標について】

「いじめ防止対策」について、前年度より11ポイント減少により目標達成に至らなかった。いじめに関する取り組みの機会を考えていく必要がある。「環境問題」については12ポイント下降しており、引き続き低い評価である。これは、主となる問題に取り組めていないことが要因である。今後も教室でのゴミの完全分別収集を行い、エコ活動の推進に努め、目標達成を目指すとともに、生徒の意識向上を促すために、更なる対策が必要と考える。「部活動」については、今年度も活動の制限がある中で、13ポイント減少となり、目標達成できなかった。以前よりも文理進学コースと比べ、特進系コースの割合が増えており、学力強化のための補講やカリキュラムによる活動時間の制約を受ける生徒が増加していることが影響しているのではないかと。生徒が心身ともに成長するために、積極的に部活動を推進できるように、7時間目授業や放課後の学習タイムの実施時間の変更を検討している。「情報モラル指導」については前年度より6ポイント減少した。まだまだ低いままである。全校生徒がタブレットを持ったことで情報モラルの重要性への意識は高まっているが、まだ低い水準であり、更なるモラルの意識向上に努めたい。

5. 進路指導に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	63	57	13	0	47	43	10	0	64	70	70	70
内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	61	53	19	0	46	40	14	0	59	69	70	70



【評価と次年度の目標について】

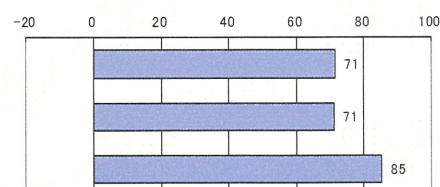
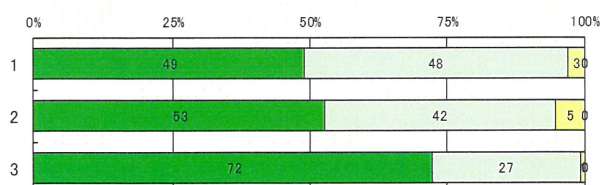
「**進路指導**」については、総合型、学校推薦型入試の受験者増加に伴い各大学での説明会、オープンキャンパスが早期から数多く開催され、参加する生徒も増加している。また総合型選抜や学校推薦型選抜への出願に向けて、教員の意識も高く出願数も増加している。6ポイント減であったが、それぞれのコースの目標に応じた支援体制の整備が進んでいる。

「**内部進学**」については、10ポイント減であったが、大阪工業大学への内部進学推薦者は昨年度より増加した。全教員対象に学園内大学の理解を深めるため説明会を毎年実施しているが、広島国際大学への見学ツアーは中学生の参加もあり、関心の高さをうかがわせた。摂南大学では学校説明会に加えオープンキャンパスに多くの参加者があり、理解が深まった。学園内大学に対する理解を早期から醸成するため、次年度は1年生を対象に学園内大学の説明会の実施を予定している。2年生での「大学体験」は学園内外の大学の講義を実施し、毎年好評である。「総合的な探究の時間」の活用や進路指導部主催の学園内大学進学説明会など、学園内大学を意識させる取り組みを通じて指導していきたい。

進路指導部室への来室生徒が年々増え、学園内大学だけでなく国公立大学を含む学園外の大学、専門学校、就職など相談内容も多岐にわたっている。生徒一人ひとりの進路実現のため、引き続き生徒面談や進路関係行事などを通して細やかな支援体制を充実させたい。

6. 保健室に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	65	64	4	0	49	48	3	0	71	75	75	75
カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	70	56	7	0	53	42	5	0	71	78	80	75
危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	96	36	1	0	72	27	1	0	85	85	85	85



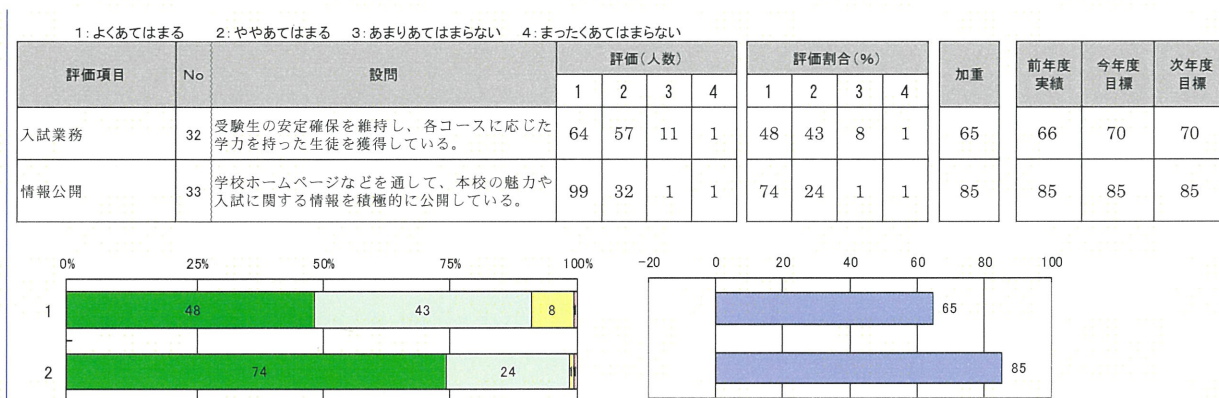
【評価と次年度の目標について】

「健康に関する指導」は目標のポイントを達成できなかった。今年度5月に新型コロナが5類となったが、インフルエンザが猛威を振るい、引き続き感染症予防についての保健指導を主に実施した。ただ、新型コロナに対する学校全体の意識が薄れたため（5類変更による）、今回ポイントを下げたと考える。また、毎月発行の「保健だより」については啓蒙活動の意味でも継続したい。

「カウンセリング体制」も目標ポイントを達成できなかった。昨年度は新型コロナの影響のため不登校生徒が増加したが、今年度の相談内容と件数については、年度末に検証し次年度につなげていきたい。サポート委員の先生方をお願いしている各学期ごとの「不登校調査」については、引き続き実施していく。

「危機管理への対応」は目標ポイントを達成した。要因として考えられるのは、今年度も「救急救命講習会（AED講習会）」を実施できたこと、年2回の部活動リーダー講習会においても救急救命についての講義を続けていることによるものとする。

7. 募集活動に関すること



【評価と次年度の目標について】

「入試業務」については昨年度とほぼ同じで、目標達成には至らなかった。2024年度中学入試では、B、C、J日程で傾斜配点を導入、中学受験大手進学塾へのアプローチ強化した結果、A日程の志願者数は昨年比109.4%、B、C、J日程も出願者数が増加し、過去最高の892名（合格倍率は1.49倍）となった。また、大手進学塾からの受験生も増加、さらには併願受験生の学力レベルの向上が目立つ入試となった。しかしながら、多くの上位生徒は併願での受験であり、本校が第1志望となっているわけではない。進学実績と連動する部分があるが、今後の対策としてはさらなる受験エリアの拡大により競争力を高めることで入学者のレベルアップを図りたい。

「情報公開」についてはおおむね「よくあてはまる」「ややあてはまる」との評価があり、ほぼ目標値に届いている。年度末からはホームページ担当業者を変更、コンテンツを見直したうえで、さらに更新頻度を上げながら、ブランド力アップならびに志願者数増につなげたい。

VI. 総合評価と今後の改善方策

本校は学校改革(2004 年開始)を始めてから、かなりの年月が経っており、変更した校名(2008 年)もすでに定着した。その間、毎年のように多くの新規事業を実行し、どの分野においても概ね発展を遂げてきた。その結果、アンケート結果についても大きな進展がみられる。しかし、年代別の資料の通り、年齢や職域によって違いがあったり、努力はしているもののなかなか改善されない項目も多い。

まず資料 3 を見ると、全体の加重平均は、2016 年度以降、過去最高だった前年度の 58.2 から 2023 年度は 53.9 へと下降したが、過去 2 番目の高水準だった。

勤務年数別にみると、10 年未満の教職員の平均値は前年度から大きく下がり、7.7 ポイントマイナスの 44.5 であったが、3, 4 年前とは同程度の水準であった。20 年未満は 5 年連続で評価が向上しており、前年度より 4.4 ポイントプラスの 65.2 であった。20 年以上は前年度より 4.1 ポイントマイナスの 62.1 であったが、過去 5 年間はそれほど大きな変化はない。項目によっても大きく違いはあるが、例年と同じく評価は年齢と比例して高くなっている。10 年未満の教員の 44.5 に対し、20 年以上は 62.1 と 17.6 ポイントも差があり、相変わらず年齢によるおおきな乖離が見られる。また、職域別では特任教諭が前年度の 54.0 から今年度は 42.5 と大きく下がっているが、2020 年度が 32.8 だったことを考えると、かなり向上したことが分かる。これまでは、若手教員と特任教諭のスコアが際立って低かったのは、教員経験が浅い中、担任や部活動といった職務を負担に感じていたのが原因であった。この 2, 3 年は、「働き方改革」で休みが増えるほか、業務が軽減され、早い時間に退勤できていることが、評価全体にいい影響があったと考えられる。前年度、大きくポイントを上げた事務職員は今年度も 1 ポイントプラスになっており、安定して高評価となっている。専任教諭も前年度 58.8 から少し下がり 56.8 となったが、2018 年度～2021 年度の平均が 53.2 だったことを考えると上昇傾向にある。

資料 3 を項目別に見てみると、例年特に低い項目である「初任者のサポート状況」については、前述の通り、まだまだ改善が望まれる。「会議の有効性」については、今年度は少し評価を下げた(7 ポイントマイナス)が、数年前に比べるとかなりポイントが上がっている。会議時間を短縮し、効率の良い会議を心掛けようという姿勢が評価されている。

「地域交流」「ボランティア」については例年同様低いスコアとなっている。今年度、新型コロナが 5 類感染症に移行したことを受けて、上昇することを期待していた項目であるが、行事等への反映が円滑でなかったことが影響していると考えている。「国際理解・交流」については、タム留学や海外修学旅行が復活したのに加え、積極的に海外校との学校交流を行ったので、前年度より 24 ポイントプラスの 77 と大きく向上した。次年度以降も、この高水準を維持できるようにしたい。

「校内外の研修」については、教育先進校を目指す学校として、オンライン研修を含め、教員の間積極的に参加しようという雰囲気が醸成されつつある。教育改革が進み、前年度から高校でも始まった「新学習指導要領」とそれに伴う「観点別評価」に対応するため、多くの先生方が教科内だけにとどまらず、学んでいこうとする姿勢が見られた。その結果、中堅、ベテラン教員のポイントが大きく改善した。研修履歴を記録する制度も今年度より導入したので、働き方改革で労働時間を減らす必要がある一方で、いかに研修の時間を確保するかが今後の課題であろう。

また、分類別に見ると、「教務、教科指導に関すること」で「学習指導要領への対応状況」と「人権教育」について、2年連続で評価が下降した。特に「人権教育」に関しては、本校の様々な取り組みを校内にも周知する必要がある。中学校では人権教育当番校として、積極的に道徳の時間を活用していることや、高校での実施している卒業生の石崎雄一氏による講演などは、生徒たちの心に響くものであり、担任以外の教員にも参加してもらいたい取り組みである。また、「生徒指導に関すること」では、「環境問題」のポイントが低くなっている。ゴミの分別回収の徹底を指導することや、風紀美化委員会を中心に各行事(文化祭、体育祭)で積極的に活動をしていることを周知するようにしたい。

「進路指導に関すること」に関しては、「内部進学」のポイントが10ポイントマイナスとなった。他大学への進学が少しずつ易化している中で、中高大連携を意識し、学園内大学への進学者ならびに、理系の選択者を徐々に増やせるようにしたい。「募集活動に関すること」については、高いポイントを維持している。中学校・高校共に前年度に比べて、志願者が増加しているだけでなく、入学者の学力は着実に向上している。ただ、前年度からの課題として、日曜祝日に開催される説明会や私学展などが新型コロナ前のように実施されたので、入試部教員が業務過多となっている。

次に資料4の表は、今年度と前年度の「加重ポイント」比較と「プラス評価」とそれぞれの改善度である。今回、「加重ポイント」で前年度より大きく伸びている項目は、「校内外の研修」「国際理解・交流」である。これは、学校の新しい将来像が少しずつ教職員に浸透してきている成果であると考えられる。「プラス評価」については、前年度評価Aの項目が多かったため、改善度が高い項目はなかった。(前年度評価Aを除く)

●「将来像」と2023年度の「重点目標」について

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	・自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ・学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ・海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実

新たな将来像を実現するために、今年度は上の3つの重点目標を掲げた。

教育の目標の「**生徒の主体性を重視する教育**」については、これまでのキャリア教育や様々な学校行事での取り組みを更に発展させ、生徒が自ら考えて行動できるように、教員のファシリテーターとしての役割を高めるように、教科内を含めた研修を行った。今後も「生徒の主体性」を高めるため、教員主導で実施してきた行事やイベントを生徒たちが自ら企画、運営できるように、学校を挙げて取り組んでいきたい。

「**目的ある進学を実現するために進路支援**」に関しては、1年次から進路学習に取り組み、学園内のスケールメリットを生かし、多くの生徒たちが学園内大学への進学を目指すようにしたい。そのためには、生徒や保護者だけではなく、教職員にも積極的に学園内大学の情報を得られる機会を設け、学園へのロイヤリティを高めていきたい。

「**海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実**」に関しては、グローバルシチズンシップを身につけさせるため、観光旅行ではない研修としての修学旅行の実施および、海外からの訪問校の積極的な受け入れを行っている。今年度は4年ぶりに海外への修学旅行を復活できたが、それを更に改善するため、2年後の行き先変更を検討している。語学研修についても4年ぶりに復活したが、生徒、保護者の関心が高く、多くの生徒が参加した。

今年度の重点目標は3つ掲げているが、いずれも私学の根幹となる特色教育や学習指導に繋がるものであり、前述の評価項目全てに連動するもので、バランスの取れた評価が重点目標達成の上で重要である。

今年度の重点目標	今年度目標	今年度評価	前年度実績	達成度
学習指導要領の対応状況	75	64	69	未達成
新しい教育への取り組み	85	83	88	未達成
国際理解・交流	60	77	53	達成

今回は、残念ながら2つの目標が未達成であった。「**学習指導要領の対応状況**」については新カリキュラムが完成し、新学習指導要領に移行するにあたって、(学校、教科) ループリックや三観点評価を実施しているが、実際の運用においては、まだまだ理解が十分でない点があったのではないかと考える。

「**新しい教育への取り組み**」に関しては、前年度も報告した通り、教員の ICT スキルも非常に高くなり、タブレットを用いた授業やオンライン授業のどちらにも対応できるようになっている。また「公開研究授業」は今年度7度目の実施となるが、前年度に引き続き外部の参加者を招待して行った。「三観点評価を意識した授業デザインと探究活動について」というテーマで実施し、研究討議も行ったが、これが本校の教員研修の中核となってきた。「**国際理解・交流**」については、姉妹校を中心とした来校が増え、生徒たちが海外の学生と交流する機会が多くなっている。また、3学期にはターム留学(豪州、ニュージーランド)に5名の生徒が渡航した。2024年度には、摂南大学と協力して、アメリカの大学の学生による教育実習を受け入れる予定である。また、2025年度のグローバル探究コースの設立に向け、生徒たちの興味・関心を更に高める方策を考えたい。

以上

2023 年度 常翔学園中学校・高等学校自己評価

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	・自律的学習者育成に向けた授業改善と生徒の主体性を重視する教育 ・学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ・海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実

より良い学校作りのため、恐れ入りますが以下のアンケートにお答えください。

下記のそれぞれの評価項目について、1～4の評価のうちいずれか1つを答えてください。
回答は Google Forms でお答えください。

調査 1（基礎調査）

職 域	1. 専任教諭	2. 特任教諭	3. 事務職員
本学園の勤務年数	1. 10 年未満	2. 20 年未満	3. 20 年以上

調査 2（自己評価）

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

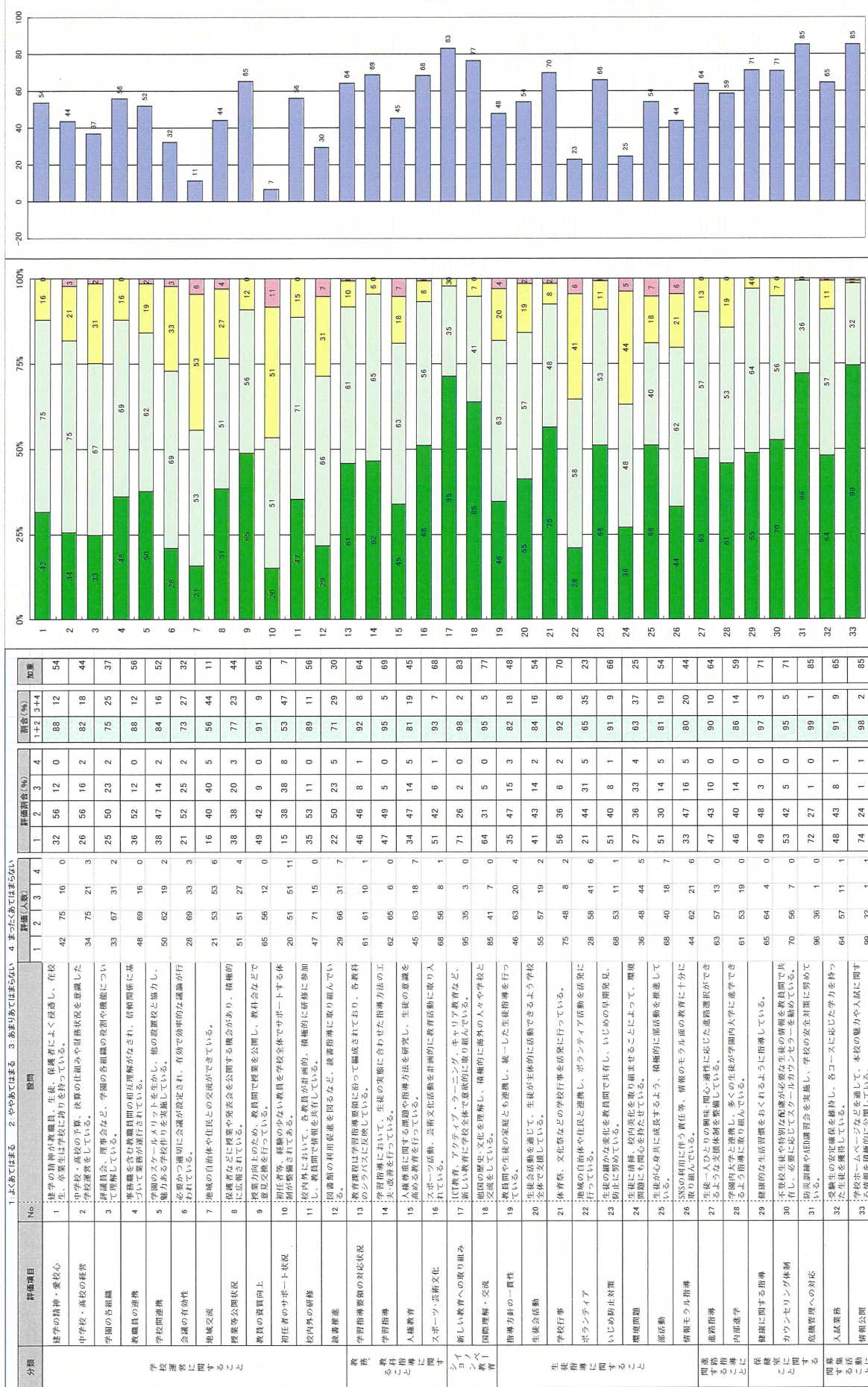
分類	評価項目	No	設問	評価 1つを選択する			
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	1	2	3	4
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	1	2	3	4
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	1	2	3	4
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	1	2	3	4
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	1	2	3	4
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	1	2	3	4
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	1	2	3	4
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	1	2	3	4
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	1	2	3	4
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	1	2	3	4
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	1	2	3	4
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	1	2	3	4

関すること 教務・教科指導に	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	1	2	3	4
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	1	2	3	4
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	1	2	3	4
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	1	2	3	4
育に 関すること イノベーション教	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	1	2	3	4
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	1	2	3	4
生徒指導に 関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	1	2	3	4
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	1	2	3	4
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	1	2	3	4
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	1	2	3	4
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	1	2	3	4
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	1	2	3	4
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	1	2	3	4
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	1	2	3	4
する こと 進路指導に 関	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	1	2	3	4
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	1	2	3	4
保健室に 関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	1	2	3	4
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	1	2	3	4
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	1	2	3	4
募 集 活 動 に 関 する こ と	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	1	2	3	4
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

アンケート期限： 1月24日（水）

資料 2



資料 3

勤務年数別比較 赤：5pt 以上プラス 黄：5pt 以上マイナス

1:よくあてはまる			2:ややあてはまる	3:あまりあてはまらない	4:まったくあてはまらない	全体		10年未満		20年未満		20年以上	
分類	評価項目	No.	設問	加重		加重		加重		加重		加重	
				2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	61	54	53	44	73	65	64	63		
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	45	44	34	30	41	55	67	60		
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	39	37	21	14	48	62	61	58		
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	65	56	57	54	75	65	71	51		
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	63	52	57	51	61	62	75	47		
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	39	32	26	23	52	48	51	36		
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	15	11	12	1	9	42	25	6		
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	57	44	46	40	63	50	72	47		
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	70	65	62	52	75	75	79	82		
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	14	7	3	-9	14	20	32	25		
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	49	56	48	47	46	68	54	64		
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	35	30	32	16	23	43	49	44		
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	69	64	63	48	70	82	79	81		
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	69	69	66	63	71	73	72	76		
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	52	45	40	35	61	58	67	54		
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	65	68	57	59	73	75	74	81		
シヨノベール教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	88	83	89	80	88	92	86	83		
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	53	77	49	73	57	87	57	75		
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	57	48	50	39	63	48	65	64		
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	56	54	48	46	59	67	68	60		
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	71	70	67	59	82	82	69	81		
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	26	23	30	13	0	33	38	32		
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	77	66	70	59	88	77	79	71		
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	37	25	25	7	39	38	56	46		
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	67	54	62	37	71	73	72	69		
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	50	44	46	32	57	60	53	53		
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	70	64	66	54	75	75	74	74		
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	69	59	65	54	70	72	76	57		
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	75	71	75	66	73	72	78	81		
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	78	71	74	60	82	83	83	82		
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	85	85	84	81	86	92	86	89		
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	66	65	60	57	73	70	72	75		
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85	85	87	85	88	88	81	83		
			平均値	58.2	53.9	52.2	44.5	60.8	65.2	66.2	62.1		

職域別比較 赤：5pt 以上プラス 黄：5pt 以上マイナス

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

分類	評価項目	No	設問	全体		専任教諭		特任教諭		事務職員	
				加重		加重		加重		加重	
				2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	61	54	66	54	50	47	67	73
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	45	44	51	55	31	25	58	37
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	39	37	47	50	21	10	46	47
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	65	56	72	57	51	52	63	60
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	63	52	64	53	56	51	75	50
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	39	32	40	31	32	35	58	33
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	15	11	10	6	24	14	17	33
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	57	44	56	42	59	38	58	73
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	70	65	74	73	62	44	75	80
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	14	7	14	8	5	-8	42	47
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	49	56	49	58	50	50	46	67
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	35	30	35	32	32	19	42	50
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	69	64	70	75	67	40	71	73
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	69	69	72	71	67	61	58	70
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	52	45	53	44	49	38	63	73
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	65	68	67	71	59	51	75	93
イノベーション教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	88	83	87	85	87	74	92	97
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	53	77	53	77	49	68	71	90
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	57	48	58	50	50	31	75	83
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	56	54	53	53	51	43	88	90
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	71	70	70	69	67	61	92	93
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	26	23	15	20	38	21	50	47
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	77	66	79	74	72	48	79	77
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	37	25	41	36	31	7	38	20
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	67	54	66	60	64	31	88	83
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	50	44	48	45	49	32	71	73
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	70	64	70	70	68	46	79	77
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	69	59	67	62	73	49	71	60
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	75	71	75	73	74	66	79	77
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動めている。	78	71	82	79	71	50	83	77
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	85	85	85	86	83	79	88	90
関係者活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	66	65	68	68	56	50	92	83
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85	85	84	86	85	79	92	93
平均値				58.2	53.9	58.8	56.8	54.0	42.5	67.8	68.8

資料 4

加重ポイントの前年比較

評価指標		改善度(前年度評価Aを除く)	
A	ほぼ達成	加重ポイント 65以上	A 10以上の上昇
B	概ね良好	加重ポイント 40以上	B 5以上の上昇
C	改善の余地あり	加重ポイント 25以上	C 5未満の上昇
D	不十分	加重ポイント 25未満	D 下降

分類	評価の観点	No	評価項目	加重ポイント			評 価		
				前年度	2023年度	増減	前年度	2023年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	60.8	53.8	-7.0	B	B	D
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	45.2	43.6	-1.6	B	B	D
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	38.8	36.8	-2.0	C	C	D
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	64.8	56.0	-8.8	B	B	D
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	62.8	52.3	-10.5	B	B	D
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	39.2	32.3	-6.9	C	C	D
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	15.2	11.3	-3.9	D	D	D
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	57.2	44.4	-12.8	B	B	D
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	70.0	65.4	-4.6	A	A	---
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	14.0	6.8	-7.2	D	D	D
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	49.2	56.4	7.2	B	B	B
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	34.8	29.7	-5.1	C	C	D
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	69.2	64.3	-4.9	A	B	---
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	68.8	68.8	0.0	A	A	---
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	52.4	45.5	-6.9	B	B	D
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	65.2	68.4	3.2	A	A	---
グローバル教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	87.6	83.5	-4.1	A	A	---
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	53.2	76.7	23.5	B	A	A
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	57.2	47.7	-9.5	B	B	D
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	56.0	54.1	-1.9	B	B	D
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	71.2	69.9	-1.3	A	A	---
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	25.6	22.9	-2.7	C	D	D
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	76.8	66.2	-10.6	A	A	---
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	37.2	24.8	-12.4	C	D	D
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	67.2	54.1	-13.1	A	B	---
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	50.4	44.0	-6.4	B	B	D
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	70.4	63.9	-6.5	A	B	---
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	69.2	58.6	-10.6	A	B	---
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	75.2	71.4	-3.8	A	A	---
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	78.4	71.1	-7.3	A	A	---
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	84.8	85.3	0.5	A	A	---
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	66.4	64.7	-1.7	A	B	---
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	85.2	85.3	0.1	A	A	---
平 均				58.2	53.9	-4.2			

プラス評価の前年比較

評価指標

A	ほぼ達成	プラス評価 80%以上
B	概ね良好	プラス評価 60%以上
C	改善の余地あり	プラス評価 40%以上
D	不十分	プラス評価 40%未満

改善度(前年度評価Aを除く)

A	5%以上の上昇
B	0～5%の上昇
C	-5～0%の下降
D	-5% 以下

分類	評価の観点	No	評価項目	プラス評価の割合(%)			評 価		
				前年度	2023年度	増減	前年度	2023年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	92.8	88.0	-4.8	A	A	--
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	82.4	82.0	-0.4	A	A	--
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	76.8	75.2	-1.6	B	B	C
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	91.2	88.0	-3.2	A	A	--
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	89.6	84.2	-5.4	A	A	--
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	77.6	72.9	-4.7	B	B	C
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	59.2	55.6	-3.6	C	C	C
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	87.2	76.7	-10.5	A	B	--
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	93.6	91.0	-2.6	A	A	--
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	57.6	53.4	-4.2	C	C	C
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	84.0	88.7	4.7	A	A	--
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	76.0	71.4	-4.6	B	B	C
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	94.4	91.7	-2.7	A	A	--
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	93.6	95.5	1.9	A	A	--
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	88.0	81.2	-6.8	A	A	--
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	93.6	93.2	-0.4	A	A	--
シヨノベール教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	100.0	97.7	-2.3	A	A	--
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々と学校と交流をしている。	86.4	94.7	8.3	A	A	--
生徒指導に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒指導を行っている。	89.6	82.0	-7.6	A	A	--
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	87.2	84.2	-3.0	A	A	--
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	92.8	92.5	-0.3	A	A	--
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	67.2	64.7	-2.5	B	B	C
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	97.6	91.0	-6.6	A	A	--
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	76.0	63.2	-12.8	B	B	D
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	91.2	81.2	-10.0	A	A	--
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	82.4	79.7	-2.7	A	B	--
進路指導に関すること	進路指導	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	96.0	90.2	-5.8	A	A	--
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	92.8	85.7	-7.1	A	A	--
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	98.4	97.0	-1.4	A	A	--
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	99.2	94.7	-4.5	A	A	--
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	100.0	99.2	-0.8	A	A	--
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	91.2	91.0	-0.2	A	A	--
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	99.2	98.5	-0.7	A	A	--
平 均				87.4	84.1	-3.3			